

第1回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議 議事要旨

平成30年9月26日に開催した第1回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議での主なご意見等を以下に示します。

(1) 施設整備の方向性等について

- 歴史、伝統、文化、自然、人、などといった地域資源の活用をどのようにするのか。また、その掘り下げをワークショップなどを通じて行っていくことが大切である。
- 圏央道を活かし、成田空港からの誘客を図るため、文化、観光等の歴史と連携した例えば「侍の村」のような道の駅を創り、外国人に特化した世界的な道の駅とし、それを地元と共有する道の駅を創るべきと考える。
- 最先端の農業、無人直売所等で電子マネーで支払える施設や子供も騒いで良いルールの野外シネマなどワクワク感が残るような形にしていけたらよいと考える。
- キッズルームの設置など子連れに優しい環境作りも大切と考える。
- 高級なあまり変わり映えのしないレストランではなく、農家ならではの素材を活かした「農家飯レストラン」とし、生産者ならではの食べ方を提供する場づくりなどとし、それが立ち寄り目的となるようにしていくことが大切と考える。
- 鬼怒川緊急対策プロジェクト+1ということで、鬼怒川と小貝川にサイクリングロードを整備する予定なので、サイクリングの拠点と道の駅を位置づけて、レンタサイクルや自転車工具などを置き、交流の促進、さらにエコシフトとし、地域活性化としてサイクリングを活用することもよいと考える。
- 地域住民が平日利用するような形を目指すことが重要と考え、また、圏央道の利用者をETC2.0などを活用するなどして、どう取り込むかが重要と考える。
- 都心部から近い、インターから近いという有利な点を活用して、ここならではの特徴・強みとして成長させていくことが重要と考える。
- 時代感を意識し、スピード感を持って進めていくことが重要であり、その中でさらに独自性をどれだけ入れていけるのかが必要となる。
- 常総は水害のまちなので、防災機能を持たせたシンボルタワーがあったり、サイクリングロードの予定もあるので、自転車のまちとすることも良いと考える。
- 道の駅の魅力の置き方をはっきりさせることが必要であり、常総市は、美味しいものがたくさんあるので、そういったものをもう少し深掘りし、常総の売りを決めていくことが重要と考える。
- 道の駅に旅行業の資格を持った従業員や職員を配置し、魅力を案内・発信しながら取り組むことが重要と考えるため、その案内人をしっかり作り、一人でも多くPRできる方を生み出し、その中で道の駅へ観光客を誘致していくことが必要と考える。
- 道の駅は自治体の顔であり、それをどう知ってもらうかが重要となる。また、今は全国どこのもので希望のものを買える時代なので、どう個性を出していくかが課題となる。